

第 43 回アパレル工業技術セミナー

【日時】2021 年 6 月 30 日（水）13:30-15:50

【内容】

講演 1

『経済産業省委託事業：「JIS 衣料サイズの開発」見直し状況について』

日本女子大学 教授 大塚美智子氏

講演 2

『現場で役立つ針選び』

オルガン針株式会社 開発本部 ミシン・フェルト針製品企画部 機能研究課

課長 三矢麻衣氏、香川真貴子氏

【開催】WEB

概要

第 43 回日本アパレル工業技術研究会技術セミナー

2021 年 6 月 30 日（水）13:30 からセミナーが開催された。

今回は新型コロナ禍の中でもあり、Web 会議での開催。参加者は 53 名であった。

テーマと講師

テーマ 1

『経済産業省委託事業：「JIS 衣料サイズの開発」見直し状況について』

日本女子大学 教授 大塚美智子氏

テーマ 2

『現場で役立つ針選び』

オルガン針株式会社 開発本部 ミシン・フェルト針製品企画部 機能研究課

課長 三矢麻衣氏、香川真貴子氏

テーマ 1

日本女子大学 教授 大塚美智子氏から「JIS 衣料サイズの開発」見直し状況について講演があった。この経産省委託事業は一昨年より手がけている。

まず、これまで日本で実施された人体計測の説明があり、現行 JIS のベースになっている計測は 1992 年から 1994 年に行われた計測であり、それから 20 年経過している。今回

の見直しは2014年から2016年の計測結果を参照している。このときの計測はJIS衣料サイズ改定の根拠とする以外に、アパレル設計に対応した精度の高い人体計測データベースの構築、グローバル化するアパレルの国際競争力を確固なものにする。三次元計測と伝統的手計測との互換性を明らかにする。グローバルな視点から国際比較を可能にするデータベースの基盤を作る。三次元人体標準サイズモデル作成のための基盤を構築する、といったことも目的とした。計測の結果、前回計測と比較して成人男子では平均身長が2.6cm高くなった。成人女子でも平均身長が2.5cm高くなり、PPサイズはほとんど存在しなくなった、などが明らかになった。

衣料サイズ国際標準化との整合に関してはISO8559-1における人体計測規定にほぼ合せている。ISO8559-2の表示方法については現行のJIS規格に影響は及ぼさない。ISO8559-3はサイズピッチの規定だが実際の寸法ではなくサイズピッチの算出方法であること、などが説明された。

衣料サイズJISの見直しは次の8規格であり、今年度が最終年度となる。

- ・ JIS L0111 (衣料のための身体用語)
- ・ JIS L4001 (乳幼児用衣料のサイズ)
- ・ JIS L4002 (少年用衣料のサイズ)
- ・ JIS L4003 (少女用衣料のサイズ)
- ・ JIS L4004 (成人男子用衣料のサイズ)
- ・ JIS L4005 (成人女子用衣料のサイズ)
- ・ JIS L4006 (ファンデーションのサイズ)
- ・ JIS L4007 (靴下類のサイズ)

市場の実態を確認するため、2019年7月から2020年10月にかけて31社の多くの業種でヒアリングを行った。

この結果から以下の仮説を立てた。

1. サイズ設定(ちゅうしんさいず、ピッチ)は現行のままで良い。
2. 男女を統一した身長ピッチ5cmの規格を加えることが望ましい。
3. 成人女子の体型区分は必要ない。
4. SMLのサイズを拡張する。
5. 年代別平均データが必要。

これらに関して分科会やWGの意見および、企業アンケートの内容が示された。

その結果、JISL0111ではISO8559-1で変更された部位のみ反映させる。具体的にはショルダーポイントが肩峰点になったこと、ウエストが水平周長になったことの2点である。JISL4001の乳幼児に関しては体格はほとんど変化がないため数値は変えないが定義に関して修正する。

L4004, 4005の男女共通サイズに関しては更にWG, 分科会で検討する。

L4006はボディファッション協会庵を規格に取り入れる。L4007は靴下協会の意向を反

省する。

以上のような内容が報告された。

テーマ2

オルガン針の三矢麻衣氏から「現場で役立つ針選び」および縫製トラブル対応を、香川真貴子氏から新製品の紹介があった。

「現場で役立つ針選び」では家庭用ミシン針と工業用ミシン針の違いやワイシャツ、パンツなど縫製アイテム別の使用針と針番手の目安、ミシン針先端形状としてレギュラータイプ、ボールポイント、カッティングポイントの違いと用途、選定方法。またステッチ用に針穴の大きい LE シリーズやオルガン針では糸穴の磨きを追求し糸へのダメージを最小限にしていることなどが紹介された。

。

第2部のテーマは縫製トラブルとミシン針の対策

縫製トラブルとしては地糸切れ、目飛び、糸返り・糸引け、パッカリング、粘着、突き出し、ダウンの葺き出しなどが有りこれらについての下人と対策が示された。

ミシン針による対策として、地糸切れや糸引けには KN・SF シリーズを使う。針熱には HP コーティング針、粘着には LP コーティング針の利用。パッカリングには NS シリーズが効果的なことが紹介された。また針の交換サイクルの目安や針先端摩耗の確認方法、針摩耗の対策針である PD コーティング針や目飛び対策を施し、大きなループの出来る SK シリーズも紹介された。

第3部としては総合的な品質向上を図った DP×35R、更には開発中のニュースタンダード針である UY×128GAS++ など、最新の開発状況をお話しいただいた。

最後に日本アパレル工業技術研究会会長の近藤繁樹から挨拶があった。

会長は、このアパレル工業技術研究会は業界のインフラ整備として始まっている。その中でアパレルの品質問題、国際社会の人権問題、化学物質の安全性、炭酸ガスなど環境への問題など今後アパレル業界に取り囲まれた課題に関しても進めていきたい。今日はありがとうございました、と締めくくられた。